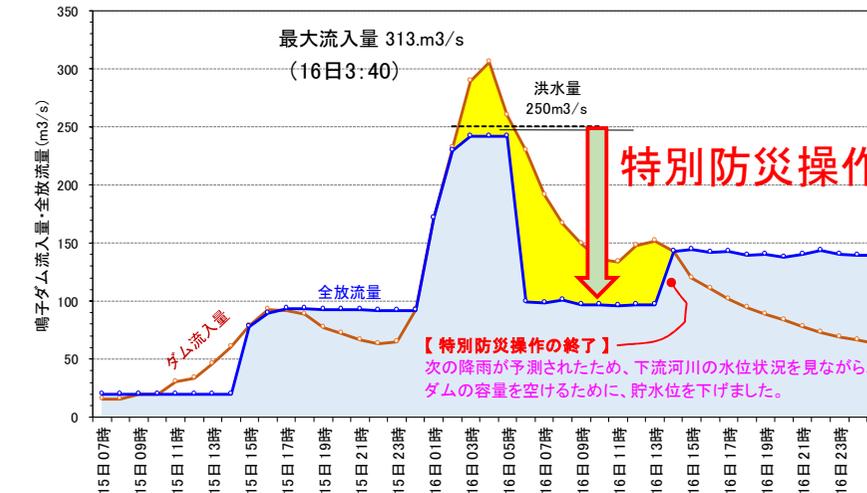
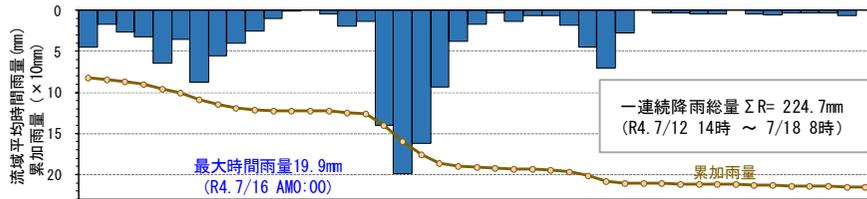


鳴子ダムの洪水調節効果 ～特別防災操作により下流河川の水位を低減～

【鳴子ダムでは、特別防災操作を実施し、下流河川の水位低減に努めました】

- ・令和4年7月15～16日に鳴子ダム流域では累加雨量225mmを記録する大雨になり、ダム下流の江合川では、涌谷地点で河川水位が上昇し、氾濫の危険性が高まりました。
- ・そこで、鳴子ダムは特別防災操作を実施し、約210万m³(東京ドーム1.7杯分)の流水を貯水池に貯留しました。
- ・その結果、涌谷地点の河川水位を0.89m低減させて計画高水位の超過を未然に防止する効果があったものと推測されます。

え あい がわ わくや

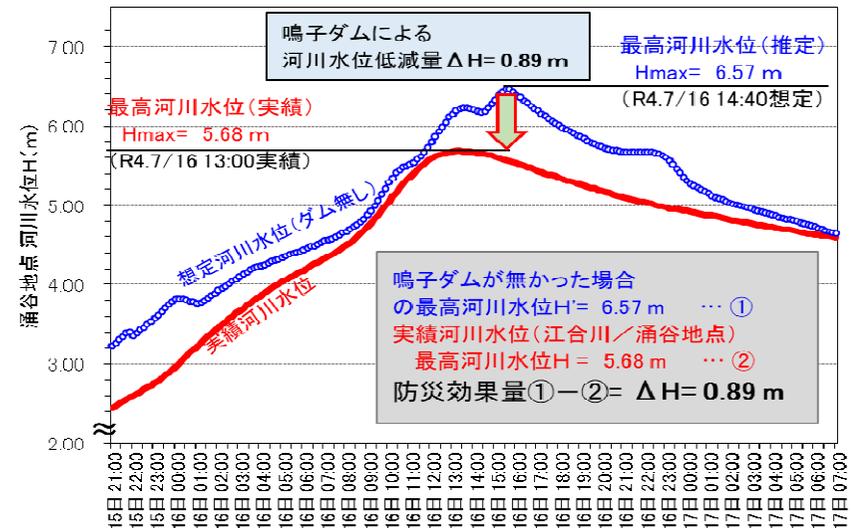


鳴子ダム貯留状況

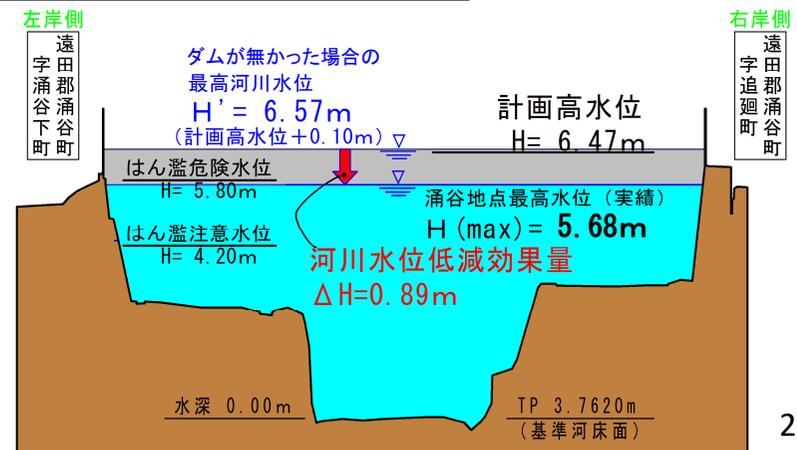


涌谷地点の河川水位
(最高河川水位発生直後)

涌谷地点（涌谷大橋付近）の河川水位経過



涌谷地点（涌谷大橋付近）の河川断面図



特別防災操作とは、下流河川の水位上昇軽減を図るため、今後雨が降らないことを確認の上、ダムに貯め込む水の量を増やし、ダムから流れる水の量を減少させる操作。

【防災操作】

- ・洪水調節開始 16日2:20
- ・洪水調節終了 16日5:30
- ・流入量の最大 16日3:40

【特別防災操作】

- ・特別防災操作開始 16日5:04(放流量250m³/s → 100m³/s)
- ・特別防災操作終了 16日13:30

※記載された数値は速報値であり、今後の詳細検討により変更される場合があります。